

まほろばのお客様へ

10月本店、11月厚別店、そして12月の本店と3回に渡り、竹布製品を数多くご購入賜り誠に有難うございます。

その後、ご使用頂いている竹布製品のご感想は如何でしょうか。

1999年より開発を始め、2001年の抗菌力の発見により、本格的な開発をスタートしたTAKEFU(竹布)は15年足らずのまだまだ未熟な繊維です。ゆえに製品によっては、デリケートなお取り扱いが特に必要なものもございます。

たとえばタオルケットです。これは竹布に限ったことではありませんが、製法上の限界により、生地表面のパイル糸が爪などに引っかかり、糸が伸びてくるという欠点があります。多くの繊維の中でも、最もなめらかでソフトな繊維の一つである竹布は特にパイル糸が抜けやすいという欠点があります。

タオルケットの商品箱の中の説明文や製品本体のタグに、糸が伸びたら「ハサミで切ってください」というお願いをしておりますが、ご使用中のタオルケットは如何でしょうか？糸が伸びたら根元からハサミで切って頂いておりますでしょうか？

以前、この問題を解消するために、マイヤー織りという製法で生産をしました。パイル抜けもなく、商品としての完成度は大変高いものとなりました。しかし、製法上、ポリエステルを20%以上使用しなければならず、その部分が肌に触れると気持ちよくないのです。竹布100%の心地よさを求めるユーザーの方々を大いに失望させる結果となりました。

良かれと思い行った改良は、竹布本来の良さを損なう、丈夫なだけの魅力のない製品づくりとなってしまったのです。

その後、「竹布は誰の為に、何の為に作るのか？」という自問自答の結果、私たちは「ある程度の耐久性を犠牲にしても竹布でなければ表現できない日々の心地良さ」を追求することを選択しました。

現在のタオルケットはそうした経緯の中で生まれてきた製品です。

満足をしてご使用くださっているかなあ？とお顔を思い浮かべながらいつも考えております。どうぞ、不具合に思うことがありましたら、タオルケットに限らずご遠慮なく、何なりとご連絡をください。

今後とも皆さまに喜んで頂ける製品の開発に真摯に取り組んでまいりますので、引き続きご愛顧のほど心よりお願い申し上げます。

間もなく冬至を迎えます。冬至は最も昼が短くなる日で、太陽が衰える日です。しかし、中国では一陽来復(いちようらいふく)の日とされ、太陽の運行の起点、太陽がよみがえる(復活)という意味です。慌しい年末年始ではございますが、お身体には呉々も留意頂き、ご自愛の程よろしくお願い申し上げます。

株式会社 ナファ生活研究所
代表取締役 相田雅彦

担当: 相田雅彦
田中優子
連絡先:
株式会社ナファ生活研究所
東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-37-3
フリーダイヤル: 0120-411-2741
Tel: 03-5412-7661 Fax: 03-5412-7662

Since 1999

TAKEFU

LIFE with BAMBOO.